
BATTLE SCHOOL

紅瞳 愁桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BATTLE SCHOOL

【Zコード】

Z4661A

【作者名】

紅瞳 愁桜

【あらすじ】

平凡な毎日を繰り返していたカエデに、ある日大きな異変が起きた。何と学校が、ファンタジーの世界のような「学校」に変わってしまったのだ！さぼり魔、ジュンと共に、普通の学校へ戻ろうとするが……？

【序】 ミッション

完璧に計画を実行するにはどうすればいいか。

第一に、迷いを捨てる」ことだ。

迷えば、そこで計画が破綻する恐れがある！

第二に、情けは無用だ。

情を見せれば、相手にペースを握られる。

第三に、敵を欺くことだ。

敵を完璧に騙せた地点で俺の勝ちだ！

最後に、常に冷静でいることだ。

冷静であればやられる」ことはない。

息を整え、緊張をゆるめる。

そして、敵がこちらを向いた隙に静かに手を挙げた。

「せ、先生……。吐き気なんかで保健室行つても良いつすか……？」

黙つて、教師がうなぎいた。

ミッションコンプリートだ！！

【一】名演技

秋松力エーテは、隣の席の南尾ジユンが口を閉じ、息を整えていたのを偶然発見した。

(……授業中に何やってんだる?)

カエデの素朴な疑問はすぐに解決した。

現社の斎藤先生が板書を終え、こちらを向いた隙に静かに手を挙げたのだ。

先ほどの表情とは違い、打って変わって苦しそうな表情をジユンは浮かべている。

(サボる気だ!)

そう気づいたときには、時既に遅く、いかにも苦しそうな声でジユンが言った。

「せ、先生……。吐き気なんでも保健室行つても良いつすか……?」

黙つて、先生がうなずいた。

ジユンは教科書を机の中にしまつと、ゆっくりと立ち上がった。顔色が真つ青で、今にも倒れそうである。その変わりよひ、心から驚いた。

(な、なんて名演技なの!? 文化祭、男優最優秀賞並だわ!)

呆気にとられていると、斎藤先生がこちらを向いた。

50代後半なせいか、妙な雰囲気があるこの先生が、カエデはあまりスキではなかつた。

田が合つと、正直、田をそらしたくなる……。

自分がそつ思われてゐるとはつゆ知らず、その口を先生が開いた。

「おい、秋松。お前、保健委員だり？ 南尾を保健室まで連れて行つてやれ」

「え！？」

そつだつた。

私は保健委員だつたのだ！
すつかり忘れていた……。

……と、なると、私はさうぞの共犯者にさせられるのね……。

チラつとジュンを見ると、齊藤先生に見えないよつヒュインクをしてきた。

(はあ……何で私が……)

心の中でつぶやくが、教師に逆らつほど度胸もないし、現社の授業もスキではないので、素直に従つことにした。

少々シャクではあるが、三口三口と進むジュンの後をゆつくりと歩きながら、教室を出た。

まさか、これが平凡な日常を壊すきっかけになるとは、カエデもジコンすらも思いはしなかつただろう。

【1】正直者と演技派

「おー、カエーテ急げよー」

さつきまでの名演技はどうしたのか、階段のおどり場からジュンが元気に言つた。

(「の変わり様…将来は役者か詐欺師ね…）

あきれでジュンを見ていると、ジュンが一段飛ばしで階段を上がつてきた。

こんな姿を斎藤先生が見たら、即生徒指導室へ連れて行かれるだろう。

そんなカエーテの心配を全く理解していない様子で、ジュンが横に並んだ。

横に並んでみると、カエーテよりも頭一つ分ほど高いことに気がつく。

しかし、折角背が高くとも、その顔には常にイタズラをした後の少年の様な表情が浮かんでいるので、どうしてもアンバランスである。そのギャップが良いって言つて言つて居る女子もクラスにはいるが…。

ぽーっと考え事していると、ジュンが顔をのぞき込んできた。ビックリして一步後ずさる。

「なあなあ知つてつか? この学校には怪談があつてよお…」

「…私、非科学的なモノ信じてないから」

「そんなこと言わずに聞いてくれよー」

捨てられた子犬のような田をジュンがした。

やれやれと思いつつも、少しかわいそつなので、聞いてやる」とこ
した。

「でな、でなー。」の学校に『異世界へつながる部屋』ってのがあ
るらしいんだー。」「へー

「俺、この前も授業抜け出しちゃん?」「あ、うん」

びつやから昨日のことを言つてゐるようだ。

あの日は大好きな数学だった為、ジュンを保健室に置いてさつわと
教室に戻つたが…。

(それにして私、昨日も保健委員つて言われたのに忘れてたんだ
…)

少々自分が恥ずかしくなりながらも、話したくてウズウズしている
ジュンをうながす。

「そん時だ! 何を見つけたと思つ?」

「さあ?」

「その部屋だよー。その実在を俺しか知らないんだぜー。」

何を寝ぼけたことを…と考えていると、考えが顔に出てしまつたら
しい。

ジュンがムキになつた顔をした。
あーあ、正直者つてつらいわ…。

何かを言おうとジュンが口を開いたが、何かを思つたよつて田

を輝かした。

「そうだ！ 連れて行つてやるよ！ 僕とカエデの二人の秘密」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4661a/>

BATTLE SCHOOL

2010年10月28日03時18分発行